

# 生涯学習

No.569

## かおり高い 文化のまち

発行 下諏訪町  
教育委員会  
編集 生涯学習  
編集委員会

〒393-8501  
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40  
(下諏訪総合文化センター内)  
☎ 0266-27-1111(内線718)  
FAX 0266-28-0131  
メール syougai@town.  
shimosuwa.nagano.lg.jp

### 御柱祭を楽しく迎えよう

下諏訪町観光案内所長 小松 直人



皆様が諏訪を訪れていました。今まで経験したことのないコロナ禍で、御柱祭の神事も大きく変化しています。昨年は初めてだと思いますが、本見立ての

神事が中止になり、今年の伐採も最少人数で木遣りの奉仕もできない中、短時間で終了しました。



御柱の森の縦ノ木

そんな中、来年に向けそれぞれの立場で準備は少しずつ進められています。コロナ禍が終息に向かい、無事に御柱祭が開催できることを願います。これから行われる神事や準備内容等を紹介していきたいと思えます。

記録があります。

御柱祭は1217年前の桓武天皇時代の西暦804年から行われています。来年の御柱は壬寅年で204回目だと思えます。御柱はウラジロ樅ノ木で樹齢200年前後の大木です。下社は明治23年から現在の東俣山の国有林の御柱の森より調達しております。江戸時代は樋橋の奥の砥沢山で何回も調達され、赤渋山からも調達されたという

現在、「御柱の森づくり協議会」や「御柱用材を育む会」の皆さんが毎年植樹や食害被害防止のネット張り等を行い、永遠に縦ノ木が調達できるように取り組んでいますので、下社は今後心配はありません。秋宮一位の太さになるには200年以上の歳月がかかります。5月に伐採が行われ、皮むきされたご用材は御柱の森に静かに寝ていきます。今年中に業者により棚木場まで曳き出されます。向かって左から春宮一、それから秋宮四まで8本が並びます。秋宮一



平成28年 秋宮三 木落とし

### 御柱祭を楽しく迎えよう

諏訪大社の最大の神事の式年造営御柱大祭は、7年目申と寅年に行われます。諏訪地方の氏子の皆さんが奉仕する神事です。4月に山出し、5月に里曳きが行われ、下社上社それぞれ3日ずつ12日間行われます。明治5年までは、下社上社が同じ日に行われていたそうです。天下の奇祭とか天下の大祭と呼ばれ全国や海外からも大勢の

# 御柱祭を楽しく迎えよう

秋宮の大注連縄も9月から作業に取りかかっています。素晴らしい大注連縄が奉納されると思います。



藁から作る元綱

んが御柱のいろいろな準備を行います。元綱を藁から作る四王地区は、すでに昨年と今年、田んぼに閑取という品種の稲を植え、藁を確保致し、来年の綱打ちに備えます。



平成27年棚木場に並べられた御柱

は、目通り周囲3.62メートルで、ここ近年では一番の太さです。



平成21年小倉大明神薙鎌打ち神事

8月最終日曜日（8月29日）には、式年薙鎌祭があり、小倉村大宮諏訪神社へ諏訪大社宮司が薙鎌を持参し、奉納した翌日

木遣りの皆さんは、1日に何十回も唄うため、すでに声つくりの練習をしています。また、各区ではこれから御柱実行委員会が設立されて、御柱祭に向かって徐々に準備が始まっています。



木落しでの木遣り

（8月30日）に、今年は仲俣にある小倉大明神の杉の木に薙鎌打ち神事が行われました。この神事から御柱祭が始まるとも言われています。年が明け、2月、各地区で大勢参加され皆さんが心を一つに元綱、曳き綱と追い掛け綱の綱打ちが行われます。それぞれの区で担当の綱が決まっており、太さも決まっています。藁から作る四王地区以外は、すべ縄を何本も寄り合わせて作ります。



平成21年薙鎌打ち神事での木遣り奉納

春宮、秋宮に建立されています。ご神木の御柱休めが4月下旬にあります。春宮一は下ノ原に、春宮二は東山田に払い下げ、他の柱は大社にて管理されます。寄贈されたり、観光用に利用されたり、お守りやお札に加工されたりします。前回の春宮一は新潟県新発田諏訪神社に奉納されました。



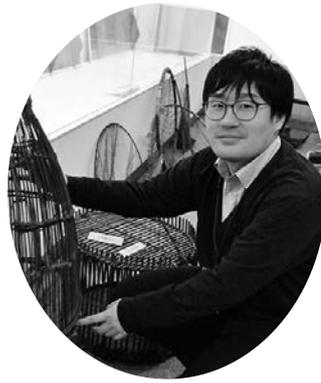
平成28年新発田諏訪神社に奉納された春宮一

木遣り唄  
「ヤー 諏訪のみはしら  
オネガイダー  
コレハ サンノウエー  
ヨイサ ヨイサ ヨイサ」

# 尊王の信に燃えたつ水戸浪士が

## 戦ひはてし和田峠の塚 今井邦子

諏訪湖博物館・赤彦記念館学芸員 太田 博人



元)年3月の筑波山挙兵に始まる、水戸藩(現、茨城県北部)内の争いに端を発し、大きな戦いへと発展した「天狗党の乱」が勃発しました。

### 「追討令」従ったのは三藩のみ

水戸藩の「尊王攘夷」

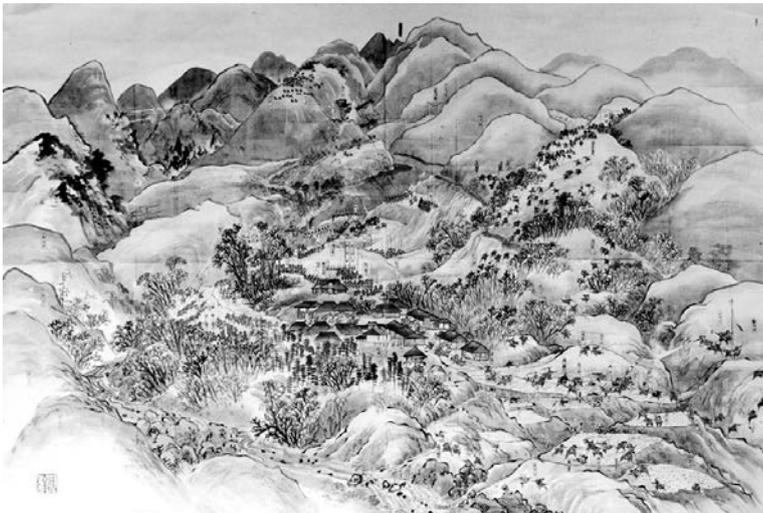
下諏訪町ゆかりの歌人、今井邦子の歌にも詠まれる「浪人塚(水戸浪士塚)」というお墓が下諏訪町樋橋地区にあり、この地で戦った人々が今もここに眠っています。



樋橋地区に建つ浪人塚

今から遡ること157年前、江戸時代末期の1864(元治)から遡ること157年前、

徳川慶喜)を頼りに、朝廷へ開国の撤回と攘夷の早期実行を訴えるため京都へ向かいます。武田耕雲斎を首領とする天狗党は総勢1000人ほどで戦い慣れして戦闘能力が高かったといわれ、一行は下野国や上野国を通り、信濃国に入りまし



「和田嶺合戦図」(諏訪市博物館寄託資料) ※絵図中央が樋橋村

た。幕府としても、天狗党の進路にある諸藩に対して「追討令」を出すなど天狗党への対処を求めましたが、実際に抗戦したのは高崎藩(下仁田戦争)と和田峠で対峙することとなる諏訪・松本の両藩だけでした。

### 「和田嶺合戦」起こる

1864(元治元)年11月17日、内山峠を越えて信濃国へ入

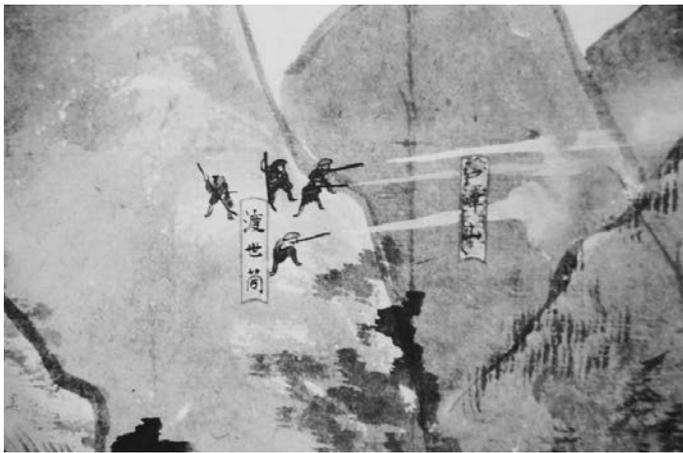
った天狗党は、同19日に和田宿(現、長和町)に宿泊。情報を得た諏訪・松本の両藩では樋橋村の上に急ぎ陣地を築き、戦いの準備を整えます。この戦いは、戦場となった場所から「和田嶺合戦」(樋橋戦争など)と呼ばれています。

下諏訪町には合戦を今に伝える史料が数多く残されており、江戸時代末に下ノ原村名主を務めた中村勝五郎もリアルタイムで見た合戦の一部始終を「萬日嘉恵帳」に書き残しています。



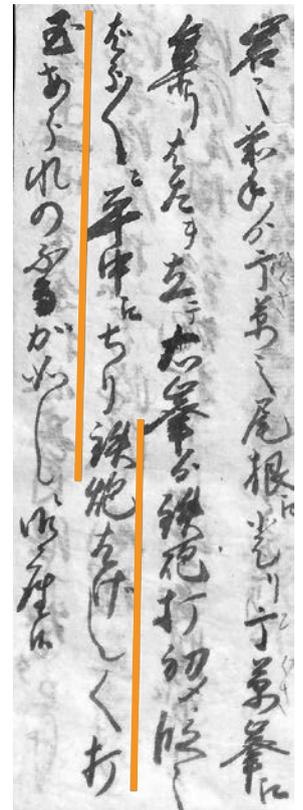
「萬日嘉恵帳」(個人蔵)

「萬日嘉恵帳」(勝五郎日記)によれば、合戦前日の昼から諏訪藩によって陣地が作られる中で、下諏訪の人々も動員されたとあり、薪・鎌・のこぎり等の物資の運搬、食事の用意など合戦の裏方として協力、さらに日頃より鉄砲の扱いに慣れた地元



地元の獵師も戦いに参加（「和田嶺合戦図」より）

勝五郎も合戦当日の朝、天狗党が目前に迫る中で実際に陣地へ足を運び、大砲5挺や小筒100丁など緊張感漂う戦地の様子をその目で確認しています。そして、20日昼頃より和田峠を越えて進軍を続ける天狗党と、それを向かい討つ諏訪藩（約600人）・松本藩（約400人）との約4時間半に及ぶ戦いが始まりました。



「水戸浪士との合戦記録」（抜粋）  
（諏訪湖博物館所蔵）

「鉄砲はげしく打、玉あられのふるが如し」とある

合戦は両軍で大砲や鉄砲を撃ち合う、まるで「（鉄砲）玉のあられの降るような」激しい戦いであったことが、当時の資料からも伝わってきます。

夕方まで銃撃戦が続いた後、天狗党による諏訪藩陣地への迂回作戦により、総崩れとなった両藩連合軍は敗走することとなりました。その後、天狗党は住民が逃げた下ノ諏訪宿にて一泊し、翌朝には岡谷を通って伊那路に向かっていきました。

### その後の和田嶺合戦

諏訪藩では合戦の翌日に、戦死者の確認や戦地に残された武器や鉄砲玉の回収などの他に、合戦によって焼失した樋橋村の



戦地に残された大筒の砲弾（諏訪湖博物館所蔵）

民家に対して補償金を支払うなど戦後処理を行っています。

一方、避難していた下諏訪の人々も合戦の翌日には避難先から戻り被害状況の確認や、役人の指示のもと天狗党が置き去った荷物の取り調べをしており、その時の史料によれば、下諏訪

宿の家屋敷41軒に置き捨てられた品々は全119点、主な物として鎗・小刀・鉄砲・陣笠などが藩に報告されました。

その後、伊那路を進んだ天狗党は進路を北陸に変え進軍を続けていきましたが、和田嶺合戦から約1ヵ月後の12月17日に加賀藩に投降することとなり、終焉を迎えました。

1869（明治2）年になると諏訪藩では、戦いで亡くなった水戸浪士のために戦死塚を築き、翌々年には水戸に名前を照会して碑を建て、供養しました。これ以降、地元の方々を中心に塚を守り、現在でも毎年11月に慰霊祭が催されています。

### 【お知らせ】

宿場街道資料館（立町）では、常設展示「和田嶺合戦ってなに？」で詳しく紹介しています。また、浪人塚慰霊祭に合わせ10月下旬頃より企画展「和田嶺合戦」（仮）を開催予定。関係資料の原本を期間中に限り公開します。ぜひご覧ください。

## 「三百年前の下諏訪を楽しむ」

諏訪湖博物館主催 地域研究講座 (令和3年5月15日実施)

「廃仏毀釈によって失われた神宮寺の跡を探る」

前博物館協議会会長 小口明先生の資料より抜粋

諏訪神社下社秋宮の本地仏(千手観音)を本尊としてまつる神宮寺。「山王閣跡」より東南の眼下窪地一帯にあり、そこ「久保村」は、その神宮寺域内の門前の村。千手堂を中心にして三重塔や仁王門、北に方丈(住職の平素の居間、大坊ともいう)があり、すべてが神宮寺。

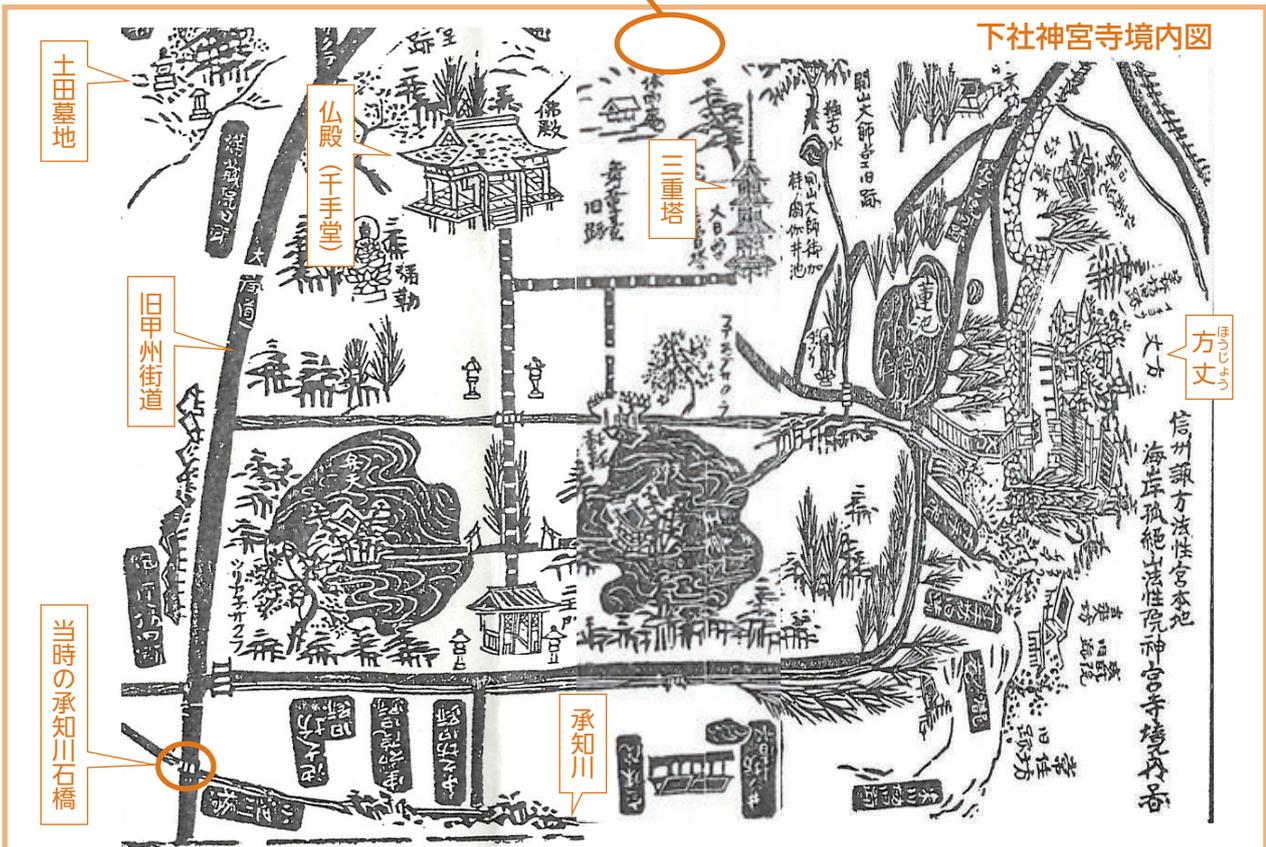
方丈は、秋宮の南に続く小公園から南にかけて(山王閣跡周辺)高い石垣の上であり、その石垣の白塀は、夕日に映えて、湖水むこうから大変美しく見えたという。  
武田氏の時代、神宮寺は大分限者(財産家)の支援や祠堂金の寄進により豊かであったようだ。武田勝頼も課税を免除するから寺の改築修理など怠りなくつとめるように文書を出している。

武田信玄が死去(天正元年1573年4月)した翌年の8月に千手堂が竣工。それ以後300年本堂として崇敬を集めてきたが、元治元年(1864年)12月18日に火災で全焼した。

(昭和52年下諏訪町立博物館発行「下諏訪の歴史」今井廣亀氏著より)



山王閣跡から神宮寺境内跡を望む



# 300年前の下諏訪を楽しむ

誰の願いも言うなりに叶えてくれるので言成地蔵尊いなりじぞうそんと呼ばれ、元禄年間、諏訪神社の神宮寺境内に安置され、信仰が厚く参拝する人が絶えなかったという。明治元年（1868年）に神仏分離令が公布され神宮寺が廃寺になった際、言成地蔵尊は萩倉の信者によって萩倉に安置されたが、毎日少しずつ前にあった方に移動するので信者たちも驚き、話し合った結果、元の位置（現在の位置）に戻して安置したと伝えられている。

（平成9年発行「わが町下諏訪」歴史編」より）



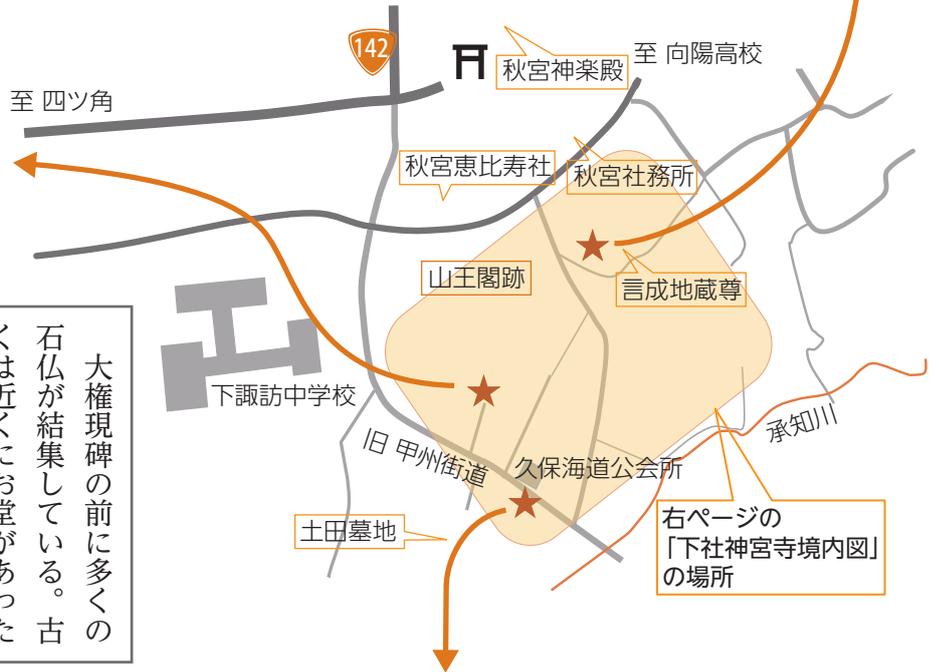
神宮寺の境内に安置されていた言成地蔵尊いなりじぞうそん



久保秋葉大権現

大権現碑の前に多くの石仏が結集している。古くは近くにお堂があったと言われている。それらの石仏群の中に男根を模した石柱に道祖神と刻み込まれたものがある。下諏訪にはこのような形の石柱が2例あり、そのうちの1つである。

（平成9年発行「わが町下諏訪」歴史編」より）



久保海道公会所の横に移された現在の承知川石橋

平成9年下諏訪町教育委員会発行の生涯学習ガイドブック「わが町下諏訪①歴史編②文芸・文化編」を手に、町内の史跡を巡ってみましょう。きっと新しい発見があります。

この石橋は、長く甲州道中承知川にかかっていた重量約13トン、輝石安山岩の1枚石。武田信玄が川中島の合戦に際し、諏訪大社の千手観音に戦勝を祈願して社殿の建て替えと千手堂に三重塔の建立を約した。合戦の帰途、信玄がこの橋を渡ろうとすると馬が立ち止まって動こうとしない。信玄は約束を思い出し、下馬して「神のお告げ承知つかまつり候」と申し上げたという伝承から承知川と呼ばれるようになったという。

この石橋に刻まれている煉瓦れんが模様は防滑とも信玄の埋蔵金の隠し図とも言われてきた。新しい橋の架け替えに当たって、この橋石を永久保存するため、久保街道公会所の道路側に移された。

（平成9年発行「わが町下諏訪」歴史編」より）

# みずべ保育園

7月14日に  
「みずべっこまつり」  
をしました



「日本全国まつりでござる」を  
踊ってお祭りスタート!  
♪まつりで〜ござ〜る♪



スーパーボールすくい  
「先生、早く流して〜」



的あて  
「お化けをやっつけるぞ」



水鉄砲

年中さんが的を作りました。  
♪1234シュツシュツシュー!

きんぎょすくい



「何色にしようかな」(未満児クラス)



たからさがし

「先生、見つけたよ」



「おみず、きもちいいよ」

## 野菜を収穫



花壇でカブを育てました。  
給食のみそ汁に入れて  
食べました。



ジャガイモあるかな?  
み〜つけた!



今年は32kg  
収穫できました。

遊ぶの大好き、食べるの大好き、友だち大好き みずべっこ



# ～図書館まつり 2021～



毎年恒例の図書館まつり！みんなで楽しめる企画が満載です。是非お越しください！

## 10月16日(土)

9:30～12:00  
**やまびこの会 朗読体験**  
 場所: 2階 声の図書室

14:00～  
**朗読のおくりもの**  
 場所: 2階 会議室

## 10月23日(土)

10:30～  
**おはなしの広場**  
 場所: 2階 会議室

14:00～16:00  
**図書館のお宝秘蔵展**  
 場所: 2階 会議室

## 10月30日(土)

10:30～  
**高校生バンド演奏会**  
 場所: 2階 会議室

14:00～  
**伊藤まさ子 読み語り**  
 場所: 2階 会議室

## 展 示

・下諏訪Bookプロジェクト  
 おすすめ本紹介POP展  
 ・紙芝居「つなひき」原画展  
 ・下諏訪俳句会 作品展示

■ 問い合わせ  
 下諏訪町立図書館  
 ☎27-5555

新型コロナウイルスの感染状況等によって、イベントの内容は変更・中止になる場合があります。予めご了承ください。

## 体力づくり教室

「吹き矢式呼吸法」を身につけ健康増進！

### ①スポーツウエルネス吹き矢教室

- 日 時 10/9(土)、16(土)、23(土)  
全3回 9:30～11:30
- 会 場 下諏訪体育館 アリーナ
- 講 師 小平はる美先生  
日本スポーツウエルネス吹き矢準師範
- 対 象 町内在住・在勤の小学4年生以上
- 定 員 30名
- 参加費 300円(保険料・マウスピース代)



スポーツウエルネス吹き矢は、5～10mはなれた円形的的をめがけ、息を使って矢を放つスポーツで、子どもから大人までゲーム感覚で気軽に楽しめます。

男性も大歓迎！バランスのとれた身体に！

### ②ピラティス教室

- 日 時 11/6(土)、13(土)、20(土)  
全3回 9:30～11:00
- 会 場 下諏訪体育館 アリーナ
- 講 師 下諏訪町スポーツ推進委員
- 対 象 町内在住・在勤の小学4年生以上
- 定 員 30名
- 参加費 100円(保険料)



西洋のヨガといわれるピラティスは、体幹やインナーマッスルを鍛えてバランスのとれた体にするを目的としているため、高齢者や体に不調のある人でも無理なく取り組めるエクササイズです。

◆各教室の申し込み先  
 下諏訪体育館窓口  
 または、☎27-1455

◆申し込み締め切り  
 ①10月 3日(日)17:00  
 ②10月31日(日)17:00

- ★当日は、運動のできる服装で、上履き、マスク、タオル、飲み物をご持参ください。
- ★ピラティス教室については、マット、または、バスタオルをご持参ください。
- ★お申し込み後、教室への参加を辞退される方につきましては、申込締切日までにご連絡いただけない場合、参加の有無にかかわらず、保険料を頂戴致します。
- ★新型コロナウイルス感染拡大の状況により、内容の変更、または中止となる場合があります。

## 町民大学 下諏訪を学ぶ⑤



### 演 題 「地学的に見た『綿の湯伝説』」

講 師：おぐち とおる 小口 徹 先生

(宿場街道資料館・諏訪湖博物館専門研究員)

日 時：10月31日(日) 午後1時30分～午後3時00分

会 場：下諏訪総合文化センター 小ホール ※当日受付(受講料100円)

下諏訪の方であればだれでもご存知の『綿の湯伝説』。ストーリーの細部にいくつかのパターンがありますが、下社の女神さまが上社から下社へ向かう途中、綿に含んだ化粧水がぼたぼたと垂れ、滴が落ちた場所に温泉が湧き、最後に綿を置いた場所が「綿の湯」だという大筋は共通しています。

講座では、この伝説を地学的に読み解きます。

■ 問い合わせ 下諏訪町公民館 ☎28-0002